

第1回 長町・歩いて楽しい街並みづくり検討会 議事概要

- 1 日 時 令和6年6月26日(水)18時30分～20時
- 2 会 場 太白区役所4階 第2・第3会議室
- 3 出席者
委員:阿部博委員、遠藤源太郎委員、柿沼敏万委員、加藤隆委員、小島博仁委員、丸山佳宏氏(小林利一委員の代理)、松木晃一氏(柴山隆委員の代理)、鈴木有希子委員、泊尚志委員、富田勲委員、不破正仁委員、堀内祥弘委員、三浦孝行委員、水谷哲也委員、脇田淳委員
オブザーバー:石川勝浩氏、山城佑太氏
コーディネーター:氏家滉一氏
太白区(事務局):太白区長、まちづくり推進部長、長町地域活性化推進室長、長町地域活性化推進室 藤森主査、船水主査
- 4 次第・資料
 - 1 開 会
 - 2 挨拶
・仙台市太白区長 檜森 亮
 - 3 設立背景・目的、協議対象エリア【資料1】
 - 4 規 約【資料2】
 - 5 座長選出
 - 6 議 事
・今後の進め方、検討事項について
仙台市の計画上のエリアの位置付け【資料3】
「長町・歩いて楽しい街並みの将来像(ビジョン)」【資料4】
今後の進め方、検討事項について【資料5】
 - 7 閉 会

1 開会

<名簿により出席者紹介>

2 挨拶

<太白区長より挨拶>

3 設立背景・目的、協議対象エリア

<事務局より資料1に基づき説明>

4 規 約

<事務局より資料2に基づき説明後、質疑等なく原案のとおり決定>

5 座長選出

<加藤委員が不破委員を座長に推薦。他の委員に異議なく、不破委員が座長に就任>

不破座長:

- 皆さんの愛する長町に少しでも役に立ちたいと思っている。
- 最近、色々なところから、「歩きたい」「歩ける」「歩いてみたい」と長町の魅力がアピールされており、この取組みも大いに可能性があるものと思っている。
- 長町の特性と、仙台から少し離れているところがポイントだと思っており、大都市とは差別化した

- まち歩きの仕組みが達成できるのではないか。
- 去年のデンマークに研修の間に見聞きしてきたものからも、サイズとしては長町ぐらいのまちの大きさがベストだと感じており、この場をうまく活用しながら、本質的に長町を歩いて楽しめる街にできるよう努力していきたい。

<不破座長が座長代理に泊委員を指名>

6 議事

<事務局より資料3、4、5に基づき説明>

<不破座長が交通ワーキンググループ及び利活用ワーキンググループの構成員を指名>

<両ワーキンググループの座長から挨拶>

泊委員（交通 WG 座長）：

- 検討内容全体も交通の話も、夢があり、未来を感じる内容で、前を見た議論できることを期待している。
- ここに来るまで長町の街をたっぷり歩いてきた。楽しめる空間だと思う一方で交通の面では気になることもたくさんある。もっとできそうなこともたくさんあり、皆さんと掘り下げて議論させていただければと思っている。

堀内委員（交通 WG 座長）：

- 昨年、長町商店街は、地域の皆さんと一緒にこのビジョンを作成した。
- これを基に、使い勝手のよい、皆さんがわくわくするようなまちを目指していきたい。

<座長・委員の意見交換>

阿部委員：

- まちづくりはいいことだと思うが、警察の立ち位置としては、法的に合致するものができ上がるかどうかである。
- 交通管理者として、あるいは交通規制に妥当性があるか法律に照らし合わせて、課題意見や現実について今後言及していく。

遠藤委員：

- 昨年度末に将来ビジョンを策定し、今年度から社会実験を実施しながら具体的なことを検討して、来年度には基本計画を作ることにしている。
- 皆さんの意見をいただき、勉強しながら基本計画の作成につなげていきたい。

柿沼委員：

- 「長町ならではの」「長町らしさ」「歩いて楽しい街並みのビジョン」の実現に向け検討会が進むことに大きな期待や夢を抱いている。
- 長町の100年先が、これによって方向づけられ、実現していくのではないか。
- 長町の皆さんに情報を提供し、場合によっては長町の皆さんのお気持ちを発言させていただければと思っている。
- 区域が広瀬橋から長町駅となっているが、「おおよそ」と理解してよいか。長町商店街は太子堂駅近くまであるので、地域的なものに幅を持たせた理解で今後話をしたいか気になる。

事務局（室長）：

- ビジョンでは区域を明確には定めておらず、まずはこの赤色の範囲から始めていくものである。

不破座長：

- 「100年先を」という刺激的なご発言があった。私も同様の意見で、このようなワークショップは、50年後100年後を想定してやっていくことが必要だと常々思っている。

- そのような方が少しずつ増え、将来の長町を本質的に変えていくことができれば、長町が起点になって日本を変えることができるのではないか。
- これから仲間が増えてくと思うが、その時にこのような場で「長町」とは何か」「長町」とはどこか」という議論をきちんとしながら丁寧に進めることが大事。

加藤委員：

- 今回、顔を合わせながら、思いを一つにする良いきっかけ、機会をいただけたと思っている。
- 私自身は、色々なことや仕掛けを打ち出していくとか、社会実験のプレイヤーとして動いてみたりとか、実際やってその環境反応を皆さんにフィードバックするような立ち位置で動いていく。
- 将来に向けて何が残せるのかという大事な機会だと思っているので、ここ数年でしっかりと将来の長町や安心して住めるという環境を作れればと思っている。

不破座長：

- 加藤さんは、コーディネーターであり、加藤さんの言葉を借りると「プレイヤー」という形で活躍されていることもあり、私たちを様々な方向に導いて欲しいと思っている。

丸山氏：

- 「長町歩いて楽しい街並みづくり」というタイトルは少し甘いと感じる。「長町歩いて飲んで食べて遊んで」ぐらい言えて、インパクトが生まれるのではないか。

不破座長：

- 「歩いて」というキーワードはすべてを包含しているように思う。歩くことによって、今まで気づかなかったものに立ち寄れるとか、歩くから飲めるとかいうこともある。
- 今、歩く以外では、自身で運転する移動手段を使ってしまったら飲めない。やはり歩くということがまず大前提で、将来の実現に繋がるのではないか。

小島委員：

- 8年前までは仙台市の職員で、あすと長町を担当し、まちづくりを行ってきた。
- 長町駅から南側は区画整理事業で歩道を拡幅しているところがあるが、北側は区画整理事業から除外しているので昔からの旧国道4号の通りのままである。歩道を拡幅したいという思いがあったが当時はできなかった。歩いて楽しい、あるいは歩いて飲みながら楽しい空間、雰囲気を作ろうという思いを実現したいと思っている。
- このビジョンは官民連携で作っている。通常は、行政だけで作ってしまうところがあるが、これは行政も一緒に入って作ったものであり非常に良い状況だと思っている。
- 本庁ではなく、区役所が主導するというのは画期的であり、応援をしていきたい。
- 旧国道4号という通りに愛称をつけることで、地域の方々も愛着を持つようになればいいなと思っているのでご検討いただきたい。

松木氏：

- 長町には昔は市場があり、仙台市民の台所的な場所としてのイメージがある。歴史もあり、歩いて楽しいだけでなく、必ず行ってみたい夢の持てる街というビジョンも浮かんだ。
- 交通事業者としても円滑な道路交通を阻害することのないよう、一致団結、協力して、将来のビジョンについて考えていきたい。

不破座長：

- 我々は公共交通を使わないと歩けないので、皆さんとのご協力や、これまでの各地区での様々な活動のお知恵をお借りしながら、前に進んでいけるのではないかとと思っている。
- 今、タクシー事業が小さな町をつなぐ重要な役割を担っているので、そういう意味でこれからも有効なご意見をいただければと思う。

鈴木委員：

- 専門の、こどもがどのように育つかという、これまで培ってきたものをアウトプットできたらいいと思っている。
- 私たちはホモサピエンスとしての子育てができていない。本当は群れの中で育てなければいけないこどもたちが、家庭の中で、親にしか育てられていないという現状が、人類としては危機的な状況だというのが私たちの業界の基盤である。そういう意味で、このまちづくりに、子育て分野の一員として参加できることをうれしく思う。
- 一方で、私はずっと市民活動団体として仙台で活動をしてきたので、子育て以外のジャンルでもNPOや市民活動団体の目指すもの、思いの代弁者としても発言したい。

不破座長：

- こどもというキーワードは、日本でも世界でもこの先の重要なキーワードだと思う。
- デンマークでは明らかにこどもが歩きやすい。こどもたちは歩くところか、ローラーブレードやキックボードを町で自由に乗りこなしている。車の管理や公共交通との接続がスムーズで、その仕組みにより、大人がこどもを野放しにしても不安が少ない。もちろん、親の見守りはしっかりしているの前提である。そのような意味でも、この検討会は重要である。

泊委員：

- 官民連携という表現があったが、私には民主導に見えた。そこに、このプロジェクトにいかにか活力が入っているかを実感した。このような熱い活動に参加できることをうれしく思うとともに、そのようなプロジェクトは絶対成功すると考えている。
- 今まで議論されてきたことの魂がすべて入っているビジョンを大事にしながら発展させていくのが使命だと理解している。その意味で、何か作るとか、整理するという側面もある一方で、それを育てていく、定着させていくということも含めながら議論していかなくてはならない。
- 区長挨拶で、思い切って道路空間を片側2車線から各1車線減少する議論もありえるという話もあったが、それはマストだと思っている。もっと積極的な議論ができると思っていて、それについて、阿部委員から辛いご意見をいただき、そのようなことを繰り返しながら、いい形を見つけていきたいと思っている。
- この検討会で進めている議論は、最終的にまちをどうやって利活用しながら発展させていくかがベースでそれを支える交通の形を作っていくものと理解している。この検討会を進めていく中で、そのようなところを意識しながら進めたいと思っている。

不破座長：

- 日本の場合、歩道整備の一番の課題は、敷地内に駐車場が用意されており、歩道を車が横切ることがあることだ。これは大変危険な状態で、ヨーロッパではありえない。そのようなことも検討するには、敷地利用のワーキンググループを新たに設置してみるのもありかと思う。

富田委員：

- 旧国道4号というが、旧というのは名前だけで、実際は交通が非常に多い地区だ。
- 交通管理者の立場からは、交通の安全と円滑というのを最優先に考えていかなければならないが、たくさんある色々な課題を一つ一つ皆さんと解決していければいいと思う。
- 長町の商店街エリアを中心とした活性化が課題・目的だと思うが、道路を通る人は様々なところから来るので、仙台市と宮城県全体の方に「ここの地区でこのようなことをやる」というご理解を得られるような話合いができていけばよい。

堀内委員：

- 長町の三つの商店街が一つになって進めていかないといけない。
- ビジョンを作ったが、今後まちづくりというマネジメントも含めて検討していかないといけない。
- 私たちは100年に一度のチャンスだと思っている。

不破座長：

- 歩道を拡幅して歩く人を増やしたいという思いがある中、重要なのは、まちの中の要素、特に商

店街など人に来てもらって喜んでもらうことを生業としている方々の存在で、その人たちの火を灯し、より増やしていく仕組みをこの場で作ろうと検討していくことが大事だ。

三浦委員：

- 賑わいが生まれて活性化すれば、人流が生まれ、人が流れれば、バスの乗客も増えるため、バス事業者にとっては大変ありがたい。
- 一方で、旧国道4号だけではなく、その周辺の交通がどのように変わるのか。周辺にもバス路線はたくさんある。それが厳しい経営状況にあるバス事業者にとってどのような影響が出るかということに心配している。
- 社会実験等の中で課題を浮き彫りにし、課題解決の道筋も作った上で、皆さんで議論いただければありがたい。
- 長町営業所があるので、一緒になって長町を盛り上げていくため協力は惜しまない。

不破座長：

- 公共交通の存在は重要で、仙台に来て9年目だが、バスの便利さに感銘を受けている。
- 歩くというキーワードで、人が外に歩くということを推進していくことによって、必ずバス利用者は増える。大前提として、車利用者を減らすことによって公共交通の利用者が増えるという手順があるので、丁寧に議論をしながら少しずつ前に進めていくことが大事だ。
- バス事業者の方々が地域をつなぐ役割を継続していただくことを切に願っている。

水谷委員：

- 公共交通の利用促進によって回遊性が向上し人が街に滞在するというのは、証明されていることであり、公共交通利用を促進しながらやっていきたいと思う。
- 旧国道4号も1万台以上通っており、そこを2車線にするということは交通量的にはなかなか厳しいので、交通分散やバス・タクシーの利用促進を図りながらやっていくものと思う。

不破座長：

- 仙台では、公共交通を利用してドアツードアで移動する時と自動車利用時のドアツードアでは、車の方が早いので、都心部に住んでいても残念ながら車を利用してしまふ。それが歩くという概念にならない残念な点である。

脇田委員：

- 今回のにぎわい創出の取組みには、非常に関心があり、大いにやっていきたいと思っており、これがバスの利用増に繋がればありがたいと感じている。
- この取組みによって渋滞が大きく発生すれば、公共交通利用者にストレスがかかることも懸念。長町に集まってくる方と通過する方がそれぞれストレスなく共存できるような取組みになるよう皆さんと議論していきたい。

石川氏：

- ほこみちに指定されている山形の七日町通は、だいたい延長は1キロ、三つの商店街があり、歴史的なものとして文翔館があるなど長町と共通点が多い。そこに、自転車道の取組みや商店街の活性化で携わったことがあり、その知見から、色々アドバイスできている。
- 七日町は年に7回ぐらい道路を通行止めにしてイベントを開催している。バス事業者からはクレームはいただいていたが、その中でも全面通行止めを何回もしてにぎわいを創出している。
- 長町では、旧幹線機能を持っていた道路が、あすと長町の大通りやバイパスができ、今、にぎわいという機能を中心に考える時期になっていると思う。

山城氏：

- 公共交通とまちづくりとを一体として進めていかないといけない。公共交通に関して、例えばバスに関連する施設などハード整備に関する支援もしており、助言や情報提供をしていきたい。

氏家氏：

- 仙台では色々な形で各エリアに関わっているが、皆さん「仙台らしさ」が何かはほとんど答えられないが、「長町らしさ」はすぐに答えられる。そのような歴史と懐の深さ、資産を持った街であり、やっている皆さんは非常にパワフルにいろんなアイデアを持ちつつ、汗をかきながら動きつつ取り組んでいる。
- どうしてもハードの文脈優先になりがちだが、本当に使うための道路の再整備につなげられるように一緒に汗をかければと思っている。

小島委員：

- 道路は歩行者、自転車、車である。自動車だけではなく、歩行者や自転車の安全性も含めて議論していかなければならない。交通ワーキンググループでも意識していただければありがたい。

7 閉会

(20 時終了)